

いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

# GOCHAMAZE times

2018  
SUMMER

No. 9



CONTENTS [特集] ごちゃまぜのいろは [Interview] 岡勇樹さん and more...

インタビュー「ごちゃまぜな人」 第9回

岡 勇樹さん

自由を遮るもの、つぶしていきたい。



医療福祉をテーマにした  
クラウドファンディング「SOCIAL FUNK」など、  
音楽／アート／医療／福祉を横断するイベントを  
数多く手がけるNPO法人 Ubdoibe(ウブドベ)の代表、  
岡勇樹さんへのインタビュー。  
一般的な「福祉」や「社会起業」の概念を  
逸脱するような岡さんの言葉は、  
しかしこまでも本質を突いているように見えます。  
逸脱しているのは、どちらなのでしょう。

なんでこんなことをやっているかって  
言つたら、やっぱり楽しいから。い  
つも言つてることは一緒だけど、生  
きてる過程で色々な良くないこと、  
予想し得ないことが起きるけど、そ  
れを障害と呼ぶならば、それは誰し  
もあることだし、何が起きててもイ  
エーイって生き続けられればいいん  
です。障害というのは、身体障害と  
か難病とか病気かもしれないし、も  
しかしたら環境問題による何かの弊  
害かもしれない。自由に生き続ける  
みたいなことを遮る何かがあるなら  
ば、それを潰していいたいなと。だ  
から、最初のきっかけはいつも自分  
が違和感を感じたことなんだよね。

そもそも、福祉を始めた10年前とかも、  
自分がヘルパーとして入っていた利用  
者的人が「施設にすげー行きにくい」  
とか「全然家から出れない」とか「差別  
されてる」とつて言つてて。それで、な  
にそれ超●ツクじやん、もつとこう  
いう風になつた方が良くない?つてこ  
とを言い始めて。それは福祉の仕事を  
しててたまたまそうなだけ。ほん  
と、偶然だよね。

今は長野に自宅があつて東京と行き來  
してるけど、どこか特定の地域で活動  
をしようって気持ちではなくて、どこに  
でも人間は住んでるし、どこかで何か  
困つてることがあつたら、具体的にど  
ういう風に困つてるんすかって、それ

何かを企画するにあたつて大事にして  
るのは、継続してやる価値があるかな  
いかつてところ。三年計画とか五年計  
画ぐらいまで立つられるプロジェクト  
を基本的にはやつていただきたい。  
「SOCIAL FUNK」とかは自主事業だ  
し、好き勝手やるために。反対に、  
受託事業は仕事をして課題解決に向か  
いつつ、予算を投入して、回していく。  
その連続。自分たちが好きなことやつ  
てたら、行政とか他の人たちがついて  
きてくれて、「一緒にそれをやろうよ」  
と言われるのが一番健全だと思うなあ。

だから、最初から「障害のない社会を」  
みたいな理念は掲げたくない。ユニ  
バーサルとかダイバーシティとかノーノ  
マライゼーションとか、言葉は違うけ  
ど全部同じこと言つてんじやん。だか  
らどつちでもいい。ごちゃまぜな状況つ  
て当たり前だしね。福祉っていう言葉  
もそう。それを「みんなの幸せ」と定義  
をしたことはいいことだと思うけど、  
言葉の定義は大事なことじゃない。

なんだろ、そもそも「福祉」ってもの  
にあんまり興味ないっていうか。一番  
興味があるのは音楽とアート。今のと  
ころそれを超えるものが出てきてない  
し、福祉のイベントにも行かないし。  
行くとしたら夜クラブ行ってみたいな  
とか、レコード屋で何枚もレコード買  
いたいなとか。福祉と言われるような  
数字のエビデンスをとつて活動を広め  
たいというのはあるけれど。

今後は、企画を削ぎ落としていきたい  
んですよ。数年前より言つてることと  
か発信してることとかが変わってきて  
るし。三、四年ぐらい前は介護業界ど  
うすんのみたいなところでやつてきた  
けど、そういうの、もうすげー飽きて  
んですよ(笑)。新しいプロジェクトも  
一ヵ月ぐらいすると飽きちゃう。自分  
の良さを發揮できる期間が過ぎるよう  
な感じがしちゃつて。

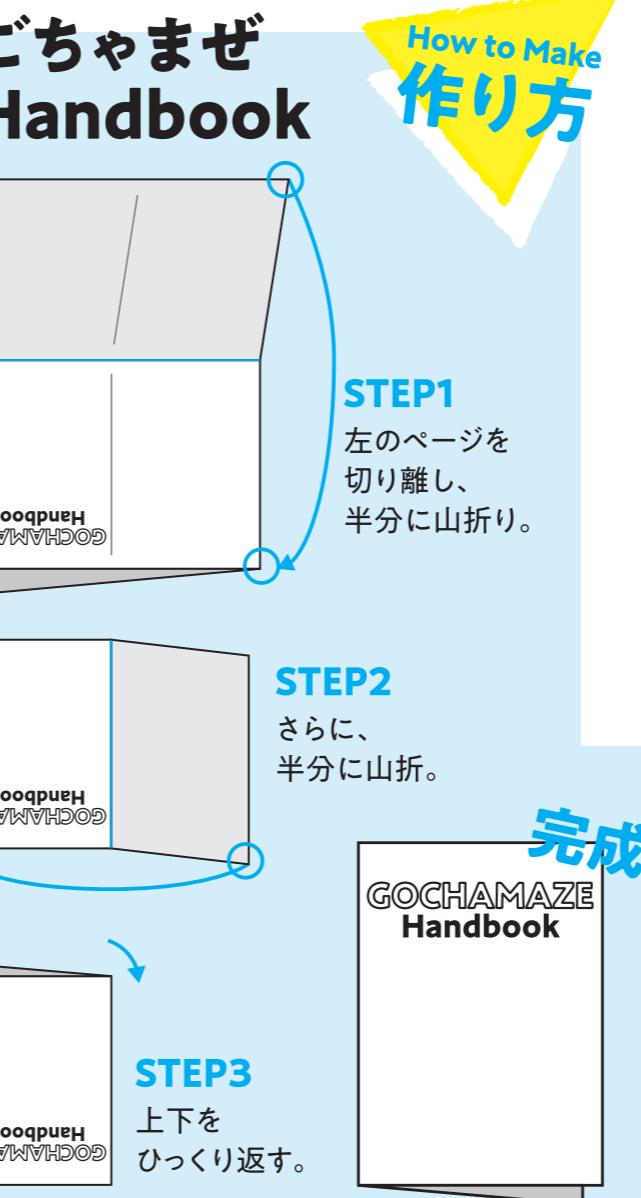
実はウブドベ以外にもやりたいことが  
あって。国連に行きたいんですよ。一  
応時期も決めていて、働き始めたら一  
〇年以内に事務総長になりたいってい  
うのがあって。「二〇二五年以降はその  
ために動く予定なんだけど、それまで  
のあと七年ぐらいは、何をどこまでや  
るのか、その縮め方をちゃんと決めて、  
自分の次に事業を継続していく人を探  
していきたいとは思つてます。そうい  
うの、得意じゃないんだけどね。

ころそれを超えるものが出てきてない  
し、福祉のイベントにも行かないし。  
行くとしたら夜クラブ行ってみたいな  
とか、レコード屋で何枚もレコード買  
いたいなとか。福祉と言われるような  
数字のエビデンスをとつて活動を広め  
たいというのはあるけれど。

岡 勇樹 おか・ゆうき  
NPO法人 Ubdoibe 代表理事。  
音楽×アート×医療福祉の領  
域でイベント・デザイン事業を  
展開。医療福祉系クラウドペ  
ンの企画運営やデジタルアーテ  
ィスト型リハビリテーションの研究  
開発などを実行している。2017  
年には日本財団ソーシャルイン  
ベーターに選出される。

# 特集 ごちゃまぜの いろは

今回の特集テーマは、私たちの初心に返つて「ごちゃまぜ特集」なぜ私たちが「ごちゃまぜ」を掲げて活動しているのか、ごちゃまぜの世界つてどういう世界なのかなどを、改めて皆さんに伝えていく特集です。特集ページは、本誌から切り離すと、そのまま「ごちゃまぜ HANDBOOK」という独立したパンフレットになります。左に示した展開図のように折り畳んで読んでみて下さい。新たな気づきが、きっと生まれるはずです！



## CONTENTS

- ごちゃまぜって、なんだろう？
- 私たちが「ごちゃまぜ」を掲げる理由
- なぜ「ごちゃまぜ」のイベントを開くのか
- History
- Key Person
- GOCHAMAZE Item
- message

## 潜入レポート report

人種やジェンダーの多様性について共通認識を持ち、万人が暮らしやすい社会にしていくには何が必要かというテーマで Creative Shibuya Morning という朝ごはんのイベントに参加してきました。



## “みんなが主役” 芸術文化体験交流事業

### テーマ theme ▶ 日本伝統文化

いわき市 × 水澤翔子美術館 × ソーシャルデザインワークス がお届けする、ごちゃまぜなイベント。

毎回ゲストを呼んで話を聞くこと、そのあとに参加者で自由にセッションをするという時間が設けられています。今回は世界中で社会的なキャリアを行っている株式会社ラッシュユーパンの人事部長のお話を聞きました。世界中で起きてるキンセンペーンの話やLUSHのミッショーン、ボリシーなど様々なお話を聞きましたが、中でも印象に残っているのが「自分らしく働くこと」のパワーをまず自分が会社が表現していく」という言葉でした。今、日本の中では働き方改革などと言われ多様な働き方を実現していくように諷われています。ただ、実際に雇用側が「多様」とはどういうことなのでしょうか。

障害や病気について知識があり対応方法を知っているということなのか、それとも国籍の異なる人が沢山いるということなのか。それらはどれも多様さを認めたからこそその結果で、組織が多様だとは言いつ切れないと思っています。組織

人事の話から始まったイベントですが、話を聞きセッションをする中で多様という幅の広さが海の広さや深さのようにも感じ常に多様さは新発見していくのだといました。その新発見したものを怖がらずに興味を持つてみたいといいたいと感じた朝ごはんのイベントでした。

の内で他の生き方を認めることやできる方法を考えることが多様さを受け入れるということではないかと思います。

LUSHではパートナーシップを認め、男女の婚姻関係だけではなく同性のパートナーに対しても対応できるように就業規則を書き換えたと言います。

## SOCIAL SQUARE - ソーシャルスクエア -

から

ソーシャルスクエアには、さまざまな生きにくさを抱える方が自立や就職を目指し通っています。このコーナーではソーシャルスクエアの活動報告や利用しているメンバー、働くクルーの声をお届けします。

### □ SOCIALSQUAREとは□

ソーシャルスクエアは障害や生きにくさを抱えた方に就労移行支援と自立訓練（生活訓練）を行う多機能型の福祉事業所です。通所しているメンバーは自分の生活リズムを整えながら、他者とのコミュニケーションやビジネススキル、ストレスコントロールなど、働くことや安定した生活を送る為に必要な知識やスキルを学びます。ソーシャルスクエアは「社会と現在の自分を結ぶための広場」というコンセプトを掲げ、メンバー自身のスキルアップだけではなく、社会と繋がるためのカリキュラムやイベントも積極的に行ってています。



※今号から GOCHAMAZETimes は猪苗代町の「はじまりの美術館」とコラボし、同美術館が持つ作品を表紙のビジュアルとして使わせて頂くことになりました。

### GOCHAMAZETimes 2018 夏号

発行日 | 2018年6月20日

発行人 | 北山剛

編集 | 小松 理度(ヘキレキ舎)、佐藤有佳里

デザイン | 鶴澤里佳(marutt)、小松知寛

撮影 | 今泉 俊昭、奥田 峻史

企画 | 松岡 真満  
発行 | 特定非営利活動法人  
印刷 | 株式会社東海共同印刷  
協力 | いわき市まち・未来創造  
支援事業

最新号はいかがだったでしょうか? 見た目は華やか・読んでなるほど。そして、ちょっとした仕掛けもあって、わくわく感もプラスした内容になっています。私達が「ごちゃまぜ」を発信し今年で3年目を迎えてます。ごちゃまぜハンドブックでの軌跡やご協力頂いた方々の声などを掲載しておりますが、こうして振り返ると、私達の力だけでは、到底成し遂げられなかった出来事がたくさんある事に、改めて気付かれます。地域の皆さんと一緒に、今後もチャレンジして参ります! 企画 / 松岡真満

表紙アーティスト | 三瓶 沙弥香

三瓶は郡山市内の福祉事業所「パッソ」に通っている。三瓶は、自身を感じていることや、思っていることなどの文字を書くことを好む。その作品は、線引き重ねた見た目と本人の名付けから「もちやもちや」と呼ばれる。主な展覧会に、「東北つなぐみちのくの恵み」(もうひとつの美術館 / 栃木 / 2012)、「無意味、のようなもの」(はじまりの美術館 / 福島 / 2018) 他。

### GOCHAMAZETimes 2018 夏号

発行日 | 2018年6月20日

発行人 | 北山剛

編集 | 小松 理度(ヘキレキ舎)、佐藤有佳里

デザイン | 鶴澤里佳(marutt)、小松知寛

撮影 | 今泉 俊昭、奥田 峻史

企画 | 松岡 真満  
発行 | 特定非営利活動法人  
印刷 | 株式会社東海共同印刷  
協力 | いわき市まち・未来創造  
支援事業

最新号はいかがだったでしょうか? 見た目は華やか・読んでなるほど。そして、ちょっとした仕掛けもあって、わくわく感もプラスした内容になっています。私達が「ごちゃまぜ」を発信し今年で3年目を迎えてます。ごちゃまぜハンドブックでの軌跡やご協力頂いた方々の声などを掲載しておりますが、こうして振り返ると、私達の力だけでは、到底成し遂げられなかった出来事がたくさんある事に、改めて気付かれます。地域の皆さんと一緒に、今後もチャレンジして参ります! 企画 / 松岡真満

最新号はいかがだったでしょうか? 見た目は華やか・読んでなるほど。そして、ちょっとした仕掛けもあって、わくわく感もプラスした内容になっています。私達が「ごちゃまぜ」を発信し今年で3年目を迎えてます。ごちゃまぜハンドブックでの軌跡やご協力頂いた方々の声などを掲載しておりますが、こうして振り返ると、私達の力だけでは、到底成し遂げられなかった出来事がたくさんある事に、改めて気付かれます。地域の皆さんと一緒に、今後もチャレンジして参ります! 企画 / 松岡真満

最新号はいかがだったでしょうか? 見た目は華やか・読んでなるほど。そして、ちょっとした仕掛けもあって、わくわく感もプラスした内容になっています。私達が「ごちゃまぜ」を発信し今年で3年目を迎えてます。ごちゃまぜハンドブックでの軌跡やご協力頂いた方々の声などを掲載しておりますが、こうして振り返ると、私達の力だけでは、到底成し遂げられなかった出来事がたくさんある事に、改めて気付かれます。地域の皆さんと一緒に、今後もチャレンジして参ります! 企画 / 松岡真満

# 私たちが「ごちゃまぜ」を掲げる理由

お互いを認め合おう。そんな意味で、「多様性」「ダイバーシティ」「共創」など様々な言葉が使われる現代社会。よく耳にする言葉だけれど、障害福祉に関わる私たち自身もちょっと難しい、よく知らないのに口に出したら笑われるんじゃないかと、ハードルの高さを感じていました。私たちが「ごちゃまぜ」という言葉を使うのは、子供も大人も何となくイメージできて口にしやすい言葉なのに、ハッキリとした定義がなく解釈が自由だから。そんな言葉だからこそ、みんなが言い合えて、誰かの違った理解や解釈が蓄積され、自分も社会も、もっとごちゃまぜになっていく。私たちが「ごちゃまぜ」を掲げるのには、そのような理由があります。



同じ形の者同士が集められ、他の形の集まりとは線を引かれ分けられている



引かれていた線を無くして、お互いの形が見えている状態

## なぜ「ごちゃまぜ」のイベントを開くのか

地域の中に、「ごちゃまぜ」を感じられる場や機会を増やし、そこに関わってくれる人が増えていけば、「違い」に対する地域の理解が深まり、生きにくさを抱えている人たちの障害が少しずつ減っていく。すると、20年後、30年後の社会は、今よりもっとごちゃまぜになっているのではないかでしょうか。

ごちゃまぜイベントが始まったのは、障害のある方から「イベントに参加したくても、安全面などを理由に参加を断られる」「申し訳ない気がして参加する勇気が出ない」という声を聞いたことでした。私たちは、障害を含む「違い」を理由に、誰かの参加を断るようなことはしません。参加した人が、もし「違い」に戸惑ってしまったとしても、その戸惑いが「楽しい」という気持ちに変わり、払拭されるようなイベントを目指します。

未来を見据えるからこそ、ごちゃまぜイベントは、「子どもにも楽しんでもらえるような企画」をイメージしながら企画しています。これからの中を作り出す子供たちが、誰かと出会い、その人のありのままを受け止め、自然に肯定できる。そんな体験を楽しみながら繰り返していくことができたら、未来は変わるはずです。

## GOCHAMAZE ごちゃまぜ

それぞれの色が鮮やかになり、いる場所も自由になった



▼今後のイベント情報はこちら



facebookページ

特定非営利活動法人ソーシャルデザインワークス

▼ごちゃまぜについて詳しく知りたい方はこちら

<https://gochamaze.jp>

▼運営法人について知りたい方はこちら

<https://sdws.jp>

▼お問い合わせはどちらから

[gochamaze@sdws.jp](mailto:gochamaze@sdws.jp)



私たちは「これがまたいい」と思っている事を。

私たちが以前のことを再認識するきっかけになります。

社会全体がこれまで見たことがないことを。

私たちがこれまで見えていたところがないことを。

私たちがこれまで見えていたところがないことを。

私たちがこれまで見えていたところがないことを。

私たちがこれまで見えていたところがないことを。

私たちが「これがまたいい」と思っている事を。

お互いが何を思っているか、

お互いが何を思っているか、

お互いが何を思っているか、

お互いが何を思っているか、

文化、人種、宗教、性の指向など、

障害の有無、性別、年齢、国籍、



いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

## GOCHAMAZE Handbook

永久  
保存版



society unique as well as fascinating.

our diversity. We believe this is what makes

acknowledge our differences and celebrate

"this person is the same", we should

whether it's, "This person is different" or

engaging in black-and-white thinking

what we call "GOCHAMAZE". Instead of

the attitude to inspire understanding. This is

However, we believe that we should have

uncomfortable with these differences.

In Japan, there are those that feel afraid or

backgrounds that make up our global society.

ethnicity, religion, and gender are all personal

Physical abilities, sex, age, nationality, race,

# History

ごちゃまぜイベントの歴史

2016年  
11.1 廃校で芋煮会  
1.1 餅つき大会  
2.7 農業体験  
5.14 スタバとコラボ～ホットコーヒーの淹れ方編～  
9.10 スタバとコラボ～アイスコーヒーの淹れ方編～  
9.19 広い芝生でスポーツイベント  
10.30 ハイジの里山で芋煮会  
12.17 お寺で音楽フェス  
1.21 ボードゲーム  
5.13 アイソングッキー<sup>TM</sup>  
6.24 コンディショニング  
7.21 スタバとコラボ～コミュニケーション編～  
9.24 地元でエス-ゲッドタム～  
10.14 ユニバーサルデザインワークショップ  
1.27 小さな街づくり～街を作つて電車を走らせよう～  
2.24 まちの文化祭～スクエアフェス～  
3.3 スポーツ体験イベント

2017年  
Hot Coffee 1st  
Ice Coffee 2nd  
Communication 3rd

2018年  
LOVE MYSELF

ごちゃまぜの目指すところは「自分を好きになる」こと。視点が社会から自分に移り、狭くなるように思うかもしれません。でも、「ごちゃまぜ」は、無知・無理解・無関心に食い込む施策だと思います。敷居の低さが緊張を和らげ、人を呼ぶ。参加して気づくのは「連携をやめない」こと、「日常生活の中に切っ掛けは幾つも転がっている」こと。湖に小石を投げ、小さな波紋が大きく広がる…そんな感覚で活動の広がりを感じます。

# Key Person

ごちゃまぜイベントに  
関わって頂いた皆さんから  
キーパーソン

## 永山優香さん



ごちゃまぜ始動の立役者

2015年11月に、私はソーシャルデザインワークスの皆さんとともに、母校である三阪小中学校で「ごちゃまぜ芋煮会」を行いました。いわきの温かい大人の方達にサポートしていただき、またたくさんの方にも参加をしていただけ、廃校となってしまった母校でも未来に繋がる思いを聞いたボジティブなイベントとなりました。参加してくださった方々のワクワクしている思いや様子を今でもよく思い出します。

障害を理由に参加を断られていた女の子が参加。その子と仲良くなりたかった別の子が手を繋ぎ一緒に歩き回った。大人が何も言わなくても一緒に歩いたこの日がごちゃまぜの原点。

## 地域の人気イベントへ



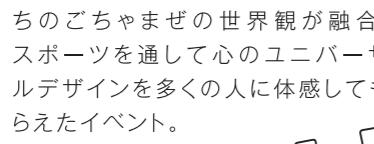
### スタバとコラボ

コーヒーの力で地域を幸せにしたいスタートアップ。ごちゃまぜの世界観を地域に知って欲しかった私たちがコラボ。アンコールの声も多く、これまで3回のイベントを実現。



### いわき市との共創イベント

いわき市のユニバーサルデザインワークショップ



### イベント常連の小学生

いわき市のユニバーサルデザイン啓発運動と、私たちのごちゃまぜの世界観が融合。スポーツを通して心のユニバーサルデザインを多くの人に体感してもらえたイベント。

### まちの文化祭～スクエアフェス～

多様性を認め合う社会へ!と呼ばれる今、当たり前に思っていたいろいろな人について改めて考えました。多様性について調べてみると、(単純に「い

## 片寄幸子さん



参加者、そしてゲスト講師

### スポーツインストラクター

ごちゃまぜは参加することで新しい気づきが得られるコミュニケーションの場だと思っています。その偏らず縛られない内容は地方や都心の垣根を超えて楽しめます。私はスポーツインストラクターとして体調改善運動「コンディショニング」をお伝えしていますが、自分が持つ技術をごちゃまぜというイベントを通してお伝え出来たことをうれしく思います。



## 中村武司さん



都内からの常連さん

### イベント常連の小学生

「ごちゃまぜ」は、無知・無理解・無関心に食い込む施策だと思います。敷居の低さが緊張を和らげ、人を呼ぶ。参加して気づくのは「連携をやめない」こと、「日常生活の中に切っ掛けは幾つも転がっている」こと。湖に小石を投げ、小さな波紋が大きく広がる…そんな感覚で活動の広がりを感じます。

## これを使うと、ごちゃまぜが体でわかる??

# Item

ごちゃまぜアイテム

## MUKU



ちがう視界から、ちがう世界を描き出す。MUKUとは、知的障がいのあるアーティストが描くアート作品をプロダクトに落とし込み、社会に提案するブランド。ピピットな色が目をひく商品。この蝶ネクタイはどんな視点で世界を見ているのだろうか。Michiyo Yaegashi「ワープロ」／蝶ネクタイ ¥19,440

## キットパス



チョークのように粉が飛ばず、衛生的な環境固形マーカー。さらには、マーカー独特的の揮発臭もなく、キャップレスのため、環境にも配慮。小さな子どもから、おじいちゃん・おばあちゃんまで、年齢や性別関係なく、すべての人の“描いてみたい!”を叶えてくれる固形マーカー。キットパスブロック 8色／¥1,512



## 赤ちゃん本部長

独身生活を満喫し夜は人気ユーチューバーとして活躍する課長や同性的パートナーと娘の3人で暮らす部下など、それぞれの背景を持った人たちが登場する漫画。今の私たちの延長線上にあるカラフルな場所がそこにはあり、世界っていいなと思える作品です。webサイト「ベビモフ」で連載中。  
/著：竹内佐千子

## UDトーク



起動すると音声を文字にしてくれるアプリ。元々は聴覚障害のある方向けに開発されたが、今は翻訳機能もつき、聴覚障害のある方だけではなく、言語が通じなくて困る人にも助かるアプリになつた。対応言語は日本語、英語、韓国語、中国語。リアルタイムにコミュニケーションができることで相互理解が深まるアイテム。

## レゴブロック



誰しも一度は手にしたことのあるLEGO。同じ凸凹がついた大小違う色ブロック。箱の中に入っている時にはただの一つのブロックだけ違う形や色があるからこそ誰かの発想によって形になっていく。恐竜にもバトラーにもお城にもなる夢を与えてくれるおもちゃ。

## NPO法人ソーシャルデザインワークス

理事から皆さまへ

# message

## 20年後の社会観変化への確信

【NPO法人ソーシャルデザインワークス代表理事 北山剛】



会(地域)が周りにあるのかによって、その後の自己形成や人格形成に大きく影響があるはずです。

では、子どもがまず最初に出会う“社会”とは何でしょう。それは家族です。学校での教育よりも、“どんな家庭環境で育ってきたのか”、“どんな社会(地域)を見てきたのか”が重要になります。しかし、その人の価値観形成は、家庭環境のみに左右されるわけではありません。途中からその環境を変えるという選択もできるはずです。

その環境変化をもたらすため、私たちは社会(地域)のなかに“ごちゃまぜ”的環境を創ります。社会のなかの一つの選択肢として選んでもらい、たくさんの子どもたちやご家族、障害のある当事者やそのご家族に関わってもらうことで、「こういう社会もあるのか」「こんなコミュニケーションができるのか」と、家族丸ごと気づき、学ぶことができる。そんな場を提供したいと思っています。

## 「いろいろ」を再考する

【NPO法人ソーシャルデザインワークス理事 宮本英実】



「いろいろ」ということではないと出でています。性別、国籍、人種、障がいなどのくくりから、思考、価値観、その他諸々。言い方を変えると、多種多様な“違い”的こと。

私はどこまで知っていたらいい。そう思う一方で、言葉は足りないかもしれないけれど、単純に“いろいろある”という捉え方で良いのではと思いました。大事なのは、その「いろいろ」をどこまで想像できるか、ということなのではないでしょうか。

経験や体験から“いろいろ”を広げていくこと。その機会やきっかけを作るこそが「ごちゃまぜ」な活動の大きな役割であると同時に、多様であるからこそ必要な、みんなで共有するビジョンになっていくのだと思います。